

結社誌における子ども俳句欄の調査

——平成十八年から五年たって——

藤 田 万喜子

一、はじめに

俳句界の高齢化が言われ始めて、様々な若返りの試みがなされている。俳人にとって作品発表の拠点になっている結社誌においては、子ども俳句欄を設け、子ども俳人を育成していることもその一つである。平成一八年三月号の結社誌を対象に子ども俳句欄の調査（「言語感覚を磨く俳句の指導―重複表現を推敲の視点として―」岐阜聖徳学園大学国語国文第26号所収）を行ってから五年たち、それがどのように変化しているかを調査した。

本稿は、俳句結社の雑誌における子ども俳句欄の現状を調査し、動向をまとめるものである。

二、俳句結社誌における子ども俳句欄の現状

1 調査対象と目的

俳句結社誌における子ども俳句欄の調査は今回で二回目である。前回は平成一八年三月号であったが、今回は平成二三年五月号である。調査対象は、前回と同様、俳句総合雑誌「俳壇」に毎月全国から送られてくる雑誌である。（ここで言う「子ども」とは大学生までを言う。）

調査することによって、高齢化に危機感を抱いている俳句界の動向を明らかにすることを目的とする。

今回調査した雑誌数は三三三冊。このうち、子ども俳句欄を設けていた雑誌は次の三八雑誌であった。

- ・伊吹嶺
- ・雨月
- ・円虹
- ・沖
- ・檉
- ・樺の芽
- ・かたばみ
- ・かつらぎ
- ・狩
- ・甘藍
- ・桔槔
- ・絹

- ・其桃
- ・清流
- ・白桃
- ・未央
- ・ランブル
- ・煌星
- ・太陽
- ・春野
- ・みすず
- ・りいの
- ・山茶花
- ・天穹
- ・ひまわり・露
- ・萌
- ・若竹
- ・杜鶴花
- ・同人
- ・山彦
- ・湾
- ・四季
- ・水葱
- ・やまびこ
- ・春燈
- ・白炎
- ・ホトトギス

これらの子ども俳句欄を設け、子ども俳人の育成を行っていると思われる雑誌は調査した雑誌のうち一・四％で、一割ほどであった。前回は一五％であったから減少したことになる。しかしながら、三八雑誌のうちわけを見ると、前回から継続的に子ども俳句欄を設けていた雑誌は二〇誌、今回の調査で新しく加わった雑誌は一八誌、残る四誌は前回の調査対象でなかった雑誌となっている。また、雑誌「ぐるっけ」のように、子ども俳句欄の掲載がなかったので今回の三八誌から外したが、投句募集の広告を掲載していたので子ども俳句欄を設けていることがわかる雑誌もあった。これらのことから、子ども俳人の育成に力を入れている雑誌が増えていると判断できよう。

次に、子ども俳句欄を設けている雑誌三八誌の実態について調査した結果を記し考察したい。

2 ページ数と取り扱われ方

雑誌が子ども俳句欄にどの程度誌面を割いているか、及び、どのように扱っているか（掲載の仕方）を調査した。

ページ数

- ・二分の一頁未満 9誌（内、六分の一頁 3誌）
- ・二分の一頁～一頁未満 10誌（内、二分の一頁 8誌）
- ・一頁～二頁未満 11誌（内、一頁 8誌）
- ・二頁～三頁未満 6誌（内、二頁 5誌）
- ・三頁 2誌

この結果で注目されるのは雑誌に割かれている子ども俳句欄の割合が増えた点である。一頁以下を子ども俳句欄に当てている雑誌が二七誌で、全体の七一・一％となっている。これを二頁以下まで拡げて見ると三五誌となり、九二・一％になる。前回の調査では二頁以下を子ども俳句のために割いていた雑誌は全体の八七％であったので、増加していることになる。しかも、ほとんどの雑誌が一頁を当てていることになる。継続的に子ども俳句を掲載して、それが定着してきていることが分かる。

掲載の仕方

前回と同様、大きく二種に分類した結果、

(1) 会員(大人)の雑詠欄の続きに作品を掲載(雑詠欄に付属)

13誌

(2) 雑詠や同人の欄に付属するのではなく、子ども俳句欄を設けている(独立) 25誌

のようになった。

前回の調査と比較して変化を見ると、(1)は前回七七%であったのが今回は三四・二%に減少しているが、(2)は前回二一・三%から今回六五・八%に増加している。このように子ども俳句欄を独立させた雑誌が増えたことは、ページ数の増加でも言えたことだが、高齢化の危機感を脱しようと子ども俳句欄の充実や子ども俳句の育成に力を注いでいることの現れと見ることが出来る。

(2)の二五誌の中を、さらに、前回と同様に分類すると、

①作品の掲載

12誌

②作品の掲載と鑑賞や選評の掲載

13誌

のような結果になった。

これらの、雑誌に設けられた子ども俳句欄に名称がある場合は次のようになっている。()内は雑誌名。

①・f s c h o o l (伊吹嶺) ・小学生の俳句(甘藍) ・子供
のつぶやき(同人) ・子どもの俳句(ランブル) ・リイノ
スキンダー犀の子ひろば(りいの)

②・虹の子俳句(円虹) ・ジュニア俳句のページ(檉) ・うっ

みね集(桔槔)

・今月の天蚕集(絹) ・煌星子ども俳句

(煌星) ・子供俳句プリズム(太陽) ・竹の子・若竹(天穹)

・ひまわり子ども俳壇(ひまわり) ・さくらんぼ(未央)

・路の臺集(路) ・ふた葉ガーデン(若竹)

掲載誌の割合を、前回の調査と比較してみると、①は四六・二%から今回四八%に、②は五三・八%から今回五二%に変化している。作品掲載のみの雑誌が増え、鑑賞・選評掲載の雑誌が減っている。鑑賞や選評を掲載するといことは指導を伴う訳で、そこまでは結社は力を入れていないのであろうか。特記したいのは、(1)で七誌、(2)で一一誌が新しく子ども俳句欄を設けていた点と、前回作品のみの掲載であった「桔梗」が今回の調査では選評を付している点である。作品の良さを紹介している。このように発展的展開を見ることが出来る。

また、①②の中には、

①第36回先帝祭児童書画文芸展俳句の部入賞作品(「其桃」)

①第11回一茶まつり全国小中学生俳句大会入選句・作品(「白炎」)

①東山子供俳句会(「山彦」)

②第13回全十勝児童・生徒俳句入賞作品展に触れて「心豊に」
(「樺の芽」)

などのような地域のイベントの入賞句や

①青根小・中学生俳句〔「四季」〕

①小学生俳句・飯島小学校〔「みすず」〕

①吉岡中学校文芸部俳句会・作品〔「やまびこ」〕

②転載、教弘会報No.180（日本教育公務員弘済会埼玉県支部）

〔「かたばみ」〕

などのように学校教育と連携した活動を掲載している雑誌があり、活性化を図ろうとしている。活性化で注目されるのは、大人の句会に参加している子どもがいることである。①「水葱」という雑誌の句会報の中で二名（小一・小二）の作品を載せている。

この調査の結果から、結社誌は高齢化の危機を乗り越えるために新しい展開を見せている点を指摘したい。

3 年齢層

年齢層についても前回と同様、幼稚園・小学生・中学生・高校生・大学生に分けて調査した。

・小学生のみ	13誌	・中学生のみ	1誌
・幼・小	5誌	・幼・小・中	5誌
・小・中	7誌	・小・高	1誌
・小・中・高	4誌	・小・中・高・大	1誌

・中・高 1誌

前回と同様小学生を中心に義務教育の年齢層がどの雑誌でも対象となっている。これは、学校の取り組みが基盤にあって、学校単位で投句があったりするからであろう。学校の取り組みから外れ、また、自己の興味を優先する年齢になるに従って俳句から遠ざかっていく傾向にある（この点は前回の調査と同様と推測できる）。しかし、定着する子どももいて、大学生の作品が投句作品として掲載されている雑誌が一誌（「萌」）あった。一年生と二年生の二名が雑誌欄の中に入っている点が注目される。

4 その他

以上、結社誌の実態をまとめたが、今回の調査が五月号であったためか、俳句大会や俳句講座の広告記事が掲載されていた。その中で、子どもを対象に作品を募集したものに次のような広告があった。

- ・夏季俳句指導講座（小・中・高校教員対象／俳人協会主催）
- ・第21回夏季親子俳句教室（俳人協会主催）
- ・俳人協会創立50周年記念 第50回全国俳句大会「ジュニアの部」（小・中・高生対象／俳人協会主催）
- ・第26回国民文化祭・京都2011（小中高生の部作品募集）
- ・ねんりんピック2011（ふれ愛）熊本俳句交流大会・第16回

「草枕」国際俳句大会（ジュニア部門／「草枕」国際俳句大会実行委員会　ねんりんピック2011（ふれ愛）熊本・熊本市実行委員会ほか主催）

・第十五回毎日俳句大賞（こどもの部〈中学生以下〉／毎日新聞社主催）

・第五十八回長崎原爆忌平和祈念俳句大会（ジュニアの部〈小・中・高校生対象〉／長崎原爆忌平和祈念俳句大会実行委員会主催）

・三重県「土の一句」大募集（小学生・中学生・高校生の部／三重県・三重県教育委員会主催）

これらは、いずれも全国規模の募集となっている。自作・未発表作品とされ、子どもの投句料は無料である。また、朝日小学生新聞や読売新聞などの新聞に子ども俳句の掲載があり、募集がなされている。子ども達に俳句作りを体験してもらい、親しんでもらうための方策の一つとみることができる。

この他には、

・教科書の中の俳句（その1）研究（「雪垣」）

・小学生の俳句、俳句指導の報告（「葦牙」）

・俳句の出前授業でーす④（報告）（「ランブル」）

など、研究や出前授業の報告が掲載されている。

結社雑誌以外の動向では、

『合同句集　女三代俳句物語』（坂上美異著　東京四季出版　平成23年9月刊）がある。二部構成になっており、第一部は著者と娘と孫の三代の作品をまとめた句集で、小学校二年生と五歳から作句を始めた二人の孫の作品が収められている。第二部は子ども俳句の鑑賞文の掲載になっている。

こうした動向も後に続く若い俳人の育成の試みとして見落してはならないと考える。

以上見てきたように、俳句界は緩やかながら若返りを目指して展開を見せている。

三、子ども俳句の鑑賞と選評の現状

結社誌に所属する会員の作品が掲載されている欄を雑詠欄という。この雑詠欄の選者は結社誌の主宰者であることが一般的で、選者の批評が付されている。この批評をもとに会員は目指す俳句がどのようなものであるか、また、どのように作句すればよいかを会得していく。この点は子ども俳句欄においても同様であろう。鑑賞や選評を掲載するということは指導もともなっていると考えられる。そこで、先に調査した雑誌で鑑賞や選評がどのように書かれているかを

調査し、子ども俳人育成にかかる現状を考察したい。

「円虹」の「虹の子俳句」から鑑賞の一部を抜き出すと

1 学校のかえりにあられふってきた 小一 中井彩菜

おもいがけず、学校のかえりみちにあられがふってきました。

彩菜さんはさいしょ少しびっくりしたかもしれませんか。でもす

ぐ「これがあられなんだ」とかんどうしたのでしょう。そういう

かんじがたわってきます。(傍線部は筆者、以下同じ)

2 てつじんにじゅうはちごうにゆきがふる 小二 池田あいな

これは神戸新長田駅近くにたつ高さ十八メートルの鉄人二十八

号像ですね。ただ「ゆきがふる」と言っているだけです。白

雪のふる中、黒いこうてつせいの鉄人がしずかに立っているすが

たをそうぞうすると、なぜか心にひびくものがあります。

3 大雪をはじめてみたんだ大雪だ 小二 五島あとむ

大阪に大雪がふりました。はじめてみたというあとむくん。

「うわー、すごい雪だ」というきもちを、「大雪」ということばを

最初と最後に二回つかってひょうげんしました。おどろきがよく

出ているとかんしんしました。

4 校庭の木の芽の風のやわらかさ 小五 小林杏璃

冬、少しさびしかった校庭。その木の若芽がもえ出てきます。

それはたしかに春を感じさせるもののひとつです。校庭を吹くな

またたかいかい風のやわらかいこと。作者のキラリとひかる感性を
感じました。

のようになっている。鑑賞文や選評は、子どもが読めるように配慮

され、漢字はふりがなを付したり、ひらがなにひらいたりしている。

内容も子どもが理解できるように配慮され、情景を解きほぐし、傍

線部のような全般的な感想を付して褒めているのがたいていの場合

である。いわゆる作り方(技法)に関わって批評していないものが

多いのだが、作り方に踏み込んでいる評言を抜き出してみると、

5 馬の子のたてがみは金の海になる 小四 常松秋花

春の光りの中で馬の子のたてがみが光っています。金の海によ

うです。金の海の発想がすばらしいです。「桔梗」・「うつみね

集」

6 春なのに青の包帯屋根の上 小五 佐浦宏紀

今度の地震では屋根の瓦が大部分被害をうけました。青いシート

で雨を防いでいる家が多く見られます。きちんと、その様子を俳

句にしました。青の包帯と言った所が良いです。「桔梗」・「う

つみね集」

7 教科書の匂ひ新し四月かな 高一 田村菜穂

高校生になって初めての教科書を、手にした感激が匂ひ新し、

という中七でよくわかります。「天穹」・「竹の子・若竹」

8 卒業でさみしく小さいランドセル

小四 井藤あやね

とくに、「さみしく小さい」とポイントをおさえているところがよくできました。(「ひまわり」・「ひまわり子ども俳壇」)

9 心の灯ぼんぼり照らすひな祭り

中二 中川治香

おひな様をかざり終えてぼんぼりを点すと、ひな壇がいっそくいきいきとして見ている人達の心にも灯を点します。女の子にうまれてよかったですね。「心の灯」とはなかなか言えません。

(「未央」・「さくらんぼ」)

10 たんぼにねかえるがいたよないていたよ

小一 広幡了大

これからも自然をよく見て教えてね。(「太陽」・「子供俳句リズム」)

11 しゃくやくのめ口紅みたいおしゃれだな

小三 山田都久美

まっかな口紅のようなしゃくやくのめを見つけ、おしゃれだなあと思ったのですね。見つけたこと思ったことをどんだんはい句にししましょう。(「未央」・「さくらんぼ」)

のように、「褒める」ことが基盤にあって、発想・表現・態度などの要点、どのように作ればよいかを示唆する書き方となっている。

もう少し踏み込んだものとしては、

12 小春日に三位でゴール持久走

小二 成子賢志

持久走で三位でゴールはすごい。小春日というしゃれたことば

をつかいましたが、これは十一月ごろ(冬の始めごろ)のほっとあたたかい日につかいます。春になってからのほかほかした日は、「春の日」でいいですよ。(「煌星」・「煌星子ども俳句」)

13 卒業す真一文字に口つぐみ

小六 島村奈々

「口つぐみ」では、言いたいことがあるのにだままっているようにも取れるので、「口閉じて」とした方がいいですね。また「卒業す」というのも「卒業式」とした方が場面がはっきりしていますね。(「ひまわり」・「ひまわり子ども俳壇」)

14 かれえだにつぼみの赤ちゃん顔だす

小四 青木健彰

顔だすは顔を出すとしましょう。(「天穹」・「竹の子・若竹」)のように、添削を通して、俳句の基本ルールである季語や効果的な表現(正しい日本語)の選択を促す注意があったり、また、

15 三月のすごく困った大地震

小五 窪田岳見

三月十一日に起こった東北関東地方の大地震、そして津波、その後も余震がつづいていますね。東京でも感じるのがありましたか。「すごく困った」というところに岳見君の気持ちが出ていますよ。「凄く」は常用漢字には無いのでひらがなにしました。

(「煌星」・「煌星子ども俳句」)

のような漢字表記の注意もあった。

いずれも、作品を否定的に捉えるのではなく、子どもを意識した

励ましなどの配慮を伴っている点が特徴である。

視点をかえて、選者の言葉を見てみると、

○よく観察して俳句に作ってください。「天穹」・「竹の子・若竹」

○三月の末に小学校を卒業して中学校に入られたみなさん。中学校に入られてからもどうか俳句づくりをつづけて下さい。「ひまわり」・「ひまわり子ども俳壇」

とあって、継続的な俳句作りをすすめている。また、「樺の芽」の「第13回全十勝児童・生徒俳句入賞作品展に触れて〜心豊に〜」では、

○私の感じたことを列挙したいと思います。①明るさ②素直さ③正

直さ④人の真似をしない（友だちの）⑤自分の感じたこと、発見したこと⑥こせこせしていない⑦特に大人の真似をしない。「や」

「かな」を使っていない。この点には、大きな感動を覚えました。

大げさになりますが、児童の俳句に触れて、心が洗われる思いとなりました。私たちも、大いに見習うことが多いような気がいたしました。

と子ども俳句に七点の特徴を見出す記述もあった。

以上、鑑賞や選評から抽出できる点は、

・作品を否定的に捉えるのではなく、褒めている。そして、作品の

良さを指摘している。

・正確な日本語や表記をするように配慮している。

・作句する上での技法を重視するのではなく、子どもが持っている

素直さなどの資質を大切にしている。

・継続的な創作を促している。

などである。いずれもその根底にあるのは、子ども達に俳句という

文芸に親しみ、俳句を作ってもらいたいという願いなのである。

四、子どもへの俳句指導

改訂された学習指導要領（平成20年3月告示）から伝統的な言語文化に関する指導が重視された。伝統的な言語文化を小学校低学年から取り上げて親しみ、継承し、新たな創造へとつないでいくことができるようにとのねらいがもたれている。俳句も伝統的な言語文化の一つで、学習指導要領には、B書くことの言語活動例、第5学年及び6学年に「ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句を作ったり、物語や随筆などを書いたりすること」とあり、これに従って指導される。

このようなことから、地域の俳人が学校の依頼を受け、国語教育の一環として出前授業をすることがある。

俳句の指導は、1俳句とは何か、基本を学ぶ、2実作（兼題・席題）、3作品発表・合評という流れが一般的で、「獅林」（平成22年7月号）の「安中小学校での俳句教室」（森一心）でも、指導の流れは同様だが、導入を

・俳句とは：①五、七、五でつくる。②季語を一つ使う。

・どんな俳句がうまいか：①読む人に意味がわかること。②リズムがよいこと。③内容が新しい。④物や心の動きがよくわかる。⑤文字に誤りはないか。

・名句と作者を覚える：音読し、調子の良さを体で覚え、季語の確認をする。

のようにしていた。

今回調査した「葦牙」に掲載されていた俳句指導の報告「小学生の俳句」（十河宣洋）の方法を見ると、「気をつけたのは五七五にこだわらないでつくることである。作っているとひとりで季語が入ってくるし、リズムもいつの間にか五七五になっていることを話し」とある。十河氏は、子ども達の作品を添削しながら必要な考え方や作り方を説明はしたものの自由な作り方を勧めている。その理由として「季語と形を重視するところからその形から抜け出せないで伸びが止まってしまうからです。子供たちの俳句が面白いのは、形にとらわれないで伸び伸び発想し、自由に作るから」と思っています。

す。」と言っている。大人の考えを押しつけるのではなく、伸び伸び学ぶことが出来るように配慮している点に注目したい。また、「ランブル」の「俳句の出前授業です④」（尾籠宏子）は、吟行を行い、作品を作らせた報告であったが、継続的に指導が行われていることが分かる内容であった。

いずれの指導も学校からの要請を受けたものである。俳句の指導には鑑賞する上でも創作する上でも実作経験があることが望ましい。だからこそ、教師と俳人との連携指導は効果的に発揮される。

五、結び

本調査を通して、

○子ども俳句欄を創設した雑誌があったこと。子ども俳句欄を独立させた形で掲載している雑誌が増えたこと。その場合のページ数は一頁を当てている場合が多くなったこと。継続的な創作を促していること。以上などから、結社誌は子ども俳句の育成を通して、緩やかであるが、若返りを目指している。

○作句指導では技法を重視するのではなく、子どもの自由な発想（作り方）に重点を置いていく。

○正確な日本語や表記をするように配慮している。

○鑑賞・選評を 通して作句力を高めようとしている。その場合には、作品を褒め、良さを認め、子どもが持っている資質を大切に
するなどの配慮がある。

○全国俳句大会や地域のイベント（文芸祭・俳句大会）などの俳句
募集に、子どもの部を設けている。新聞などにも子どもを対象に
した俳句欄がある。これを通して、子どもに作句の奨励をして
いる。

○教師と俳人との連携指導を通して、教育現場における俳句指導の
充実を図ろうとしている。

以上の点を明らかにすることができた。

子どもを対象にした読書感想文のコンクールがあるが、感想文を
書き重ねることによって物語（小説）に親しんで読書習慣につながっ
ていくのかもしれない。これと同じで、俳句の場合も、鑑賞体験や
創作体験を積み重ねる機会を作り、子ども達に俳句という文芸に親
しんでもらうためのさらなる工夫が必要であろうと考える。